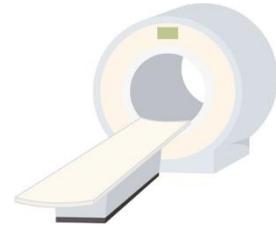


## 健診、ドックで健康管理 2023.1

病院では病気の診断、経過観察などのために多くの医療機器が使われています。

健康診断やドックではこれらの診断機器を使って健康状態を確認することができます。今回は健康診断やドックで使われる診断機器（オプションを含む）で何がわかるかを考えましょう。



○胸部レントゲン検査では心臓の病的な大きさ、胸水の有無などが判断できます。

○心電図検査では不整脈を発見できます。心房細動は心臓が原因で起こる脳梗塞の最大の原因です。無症状の事もある心房細動の発見は被害が大きい脳梗塞の発生予防につながることができます。

○脳の MRI 検査は脳ドックで行えます。無症状の脳梗塞を発見することによって、将来起こりうる症状のある脳梗塞の発生予防につながります。また、脳腫瘍、脳動脈瘤、認知症を判断するための脳萎縮性変化などが発見できます。

○呼吸機能検査（スパイロメトリー）では肺活量などを測定し、肺年齢を推定します。喫煙歴の長い人では、閉塞性肺機能障害（COPD など）の程度がわかります。

○肺の CT 検査は無症状の肺気腫、肺結核、肺がんを発見し治療につなげることができます。

○骨塩定量検査は、無症状の骨粗しょう症を発見し、積極的な骨折予防の必要性が判断できます。

○眼底検査では脳に最も近い血管を観察することによって、動脈硬化や高血圧症の程度、糖尿病、緑内障等、将来失明につながるような変化も無症状のうちに発見できます。

○血圧脈波検査では動脈硬化の程度、血管の硬さ、血管のつまり具合を判断し、血管年齢を推定できます。

○超音波エコー検査は無症状の甲状腺腫瘍、乳腺腫瘍、皮膚軟部組織腫瘍の発見、性質診断に威力を発揮します。腹部では、肝臓、胆のう、すい臓、腎臓等の診断にも効果的です。

○頸動脈エコー検査は脳梗塞や心臓病の危険性のある頸動脈の動脈硬化（狭窄状態）を診断します。

これらの検査は健康診断やドックで取り入れることができます。痛みなど体への負担は少なく、無症状の体の異常を見つけ出すことが可能です。検査によっては早期発見のため、定期的に検査する必要なものもあります。健康状態を確かめ健康を守ることは医療費負担を減らすためにも大切なことです。身近な病院での各種制度を利用した積極的な検査の利用をお待ちしています。これらの検査機器の維持は皆さんの受診料に支えられています。合わせて皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦